

てつがく対話における児童の発言について

—対話分析を通して見えてきた論理性とケア的思考の深まり—

神戸佳子・久下谷 明

I はじめに—研究の目的—

II 研究の方法と内容

1. 第1のテーマ「心があたたかい」

- (1) 問いのタイプ
- (2) 発言のつながり
- (3) まとめ

2. 第2のテーマ「つめたいやさしさ」

- (1) 問いのタイプ
- (2) 発言のつながり
- (3) まとめ

III 考察

IV おわりに—あとがきにかえて—

【授業プロトコル】

【対話一覧】

I はじめに ー研究の目的ー

本校は、平成27年度より文部科学省の研究開発指定をうけ、新教科「てつがく」の創設に取り組んでいる。研究を進めていく中で、てつがく対話中の子どもたちが、どのように対話を進めていくのかを記録し構造を分析していくことで、そこで使う論理や子どもたちの思考の変化の様相を知りたいと考えた。

そのために、まず、てつがく対話の授業プロトコルを読み解き、子どもたちの発言と発言の関係を調べ、また、発言中に使われている論理を調べることにした。

II 研究の方法と内容

「やさしさとは何か」という主題で、第3学年の「てつがく」の授業を行った。その中の1時間の授業における対話記録を、発言の内容から分類した(表1, 表2)。その上で、対話がどのような経緯と論理で展開しているのかを抽出した。

第1のテーマは「心があたたかい」、第2のテーマは「つめたいやさしさ」であった。これらの対話は、3年生の1クラスが同一時間の中で行っており、第1のテーマから第2のテーマへは、教師が切り替えを行っている。

上記2つのテーマで行われたてつがく対話を、いくつかの項目について分析する。

以下の文章中()内の数字は表1, 表2の発言番号を示す。

1. 第1のテーマ「心があたたかい」

(1) 問いのタイプ

「心があたたかい」については、教師が最初に「心があたたかかってどんな感じだろう」(②)と発言している。このことから、このテーマの問いは、“…とは、何か”タイプであり、定義を尋ねる問いの一つと考えられる。しかしながら、“…とは”にあたる事柄が「心があたたかい」というように、「AがB(形容詞)である」であり、教師の最初の発言が「どんな感じだろう」と問うていることから、定義を尋ねる問いでありながら、その様相を尋ねる問いに変えていることが分かる。

即ち、定義が難しい場合、あるいは子どもの発達段階を考慮する場合、直接的に定義させようとはせず、定義に近づくための様相を語らせるという、指導上の(あるいはファシリテートの)手立てがあったと判断できる。

さらに、教師は「経験がある？」と問うており、経験を元にして語るように促している。

(2) 発言のつながり

このテーマの元になった子どもの考えは、『「やさしくされてあたたかい」』ということがわからない。ふとんに入ればあたたかい。」(①)であった。この考えをうけて、教師が「心があたたかかってどんなことだろう」という問いを投げかけている。即ち、「やさしくされてあたたかい」ということは、「やさしくされて、心があたたかい」ということ、つまり心情について“あたたかい”という表現を使っているのだということを明確にしている。これに応じて、子どもたちの対話は進んでいく。

【論点1】物理的な暖かさとの相違

○ふとんに入る時とやさしい時は違う。ふとんに入って暖まることと、人に優しくすることは目的が違う。(行為・目的の相違) …B (④), D (⑧), G (⑭)

◎(私は)やさしくされたあたたかさが分からないから、ふとんのあたたかさとの違いが分からない(論点1は成立しない) …A (⑨): 問題の提起者

論点1に対する問題提起者(A児)の理論に注目したい。 α と β が異なることを理解するためには、

α も β も知っていなくてはならない。そもそも α とは何か（どんなことか）との問いに対して、 β とは異なるといくら論じても、解決につながらないことを示している。

B児の発言の後に、「やさしさは、自分でやったことは感じられない。やってもらったことは感じられる」という発言があった（C児（⑤））。この論点はその後にはつながらず、ふとんのあたたかさとの比較に戻るのだが、その後の子どもの発言で、「やさしくされた」「やさしくする」という表現が現われていることを考えると、影響を与えていると判断できる。

このように、この対話では、「やさしくされた」と「やさしくする」とが混在していることも注意を要するかもしれない。ふとんのあたたかさを感じるためには、ふとんに入るという自発的行為が必要であり、一方のやさしくされて心があたたかく感じることは、他者に優しくされるという受け身の行為の結果である。つまり、ふとんのあたたかさやさしくされたあたたかさでは、物理的⇄心情的、自発的⇄受動的、という2つの相反する事柄が係わっているのである。

【論点2】やさしさを感じるのと心があたたかくなることの異同

- Aちゃんも、分からなくても心はあたたかくなっていると思う（自分の感覚での判断）…E（⑩）
- 悲しいときに友だちに声をかけられるとあたたかくなる。Aはそういう経験が無いのか（経験と感覚を同一視）…F（⑪）
- ◎やさしくされたときに、うれしいとかしかなくて、あたたかいついていう意味が分からない（2つの感覚は異なる）…A（⑫）：問題の提起者
- 心があたたかにならないということは、何をされてもやさしいと感じないことになる。他の人は、感じているのだから（異種の感覚を同一視）…C（⑬）

ここの発言者は、「自分の感覚とA児の感覚」「経験と感覚」「(やさしいと感じる)感覚と(心があたたかく感じる)感覚」を同一として話している。そこから結論を導き出すため、A児も心があたたかくなっている（E児）、A児はやさしくされた経験が無い（F児）、A児はやさしいと感じない（C児）、となる。C児は、「他の人は感じている」ことを根拠としている。

それに対して、A児は「やさしくされてうれしく感じる」と「あたたかく感じる」が別の事柄であると主張する。つまり、他の発言者が同一としていた事柄が同一ではないのだ、少なくとも、A児にとっては同一ではないのだから、同一であることを前提としてはいけないと主張するのである。

上のA児の発言の後で、教師は多くの児童に発言させようと声をかけ、G児が発言する。G児の発言は論点1に含まれる内容で、対話が行きつ戻りつしながら進んでいる様子も現れている。

【論点3】心があたたかい状態を表現する

論点2までの対話を受けて、教師は「A児はやさしさを感じる」ことを確認した上で、「心があたたかいとはどういうことか言ってくれるかな」と提案する（⑭）。ここは、教師がファシリテーターとして介入した部分と考えられる。

- ふとんで暖まると、心があたたまるのは、同じオレンジ色っぽいイメージ。ふとんは“ぼかぼか”，心があたたまると“ふわふわ”，ちょっと違うかな。（色・オノマトペでの表現）…H（⑰）
- 感情的にあたたかくなっただけで、熱とかは感じない。（客観的な尺度）…I（⑱）
- ふとんは単にふとんが暖かいだけで、心があたたかいというのは、何かしてもらって嬉しくなった、感謝とか。（感情、行動を表す言葉）…J（⑲）
- 体があたたかくなること、心があたたかくなること。（体と心の対比）…K（⑳）

問題提起者がふとんに入るとあたたかいのは分かる発言したことから、なかなか抜けきれないことを見て取れる。しかし、論点1では、“ふとんに入るとあたたかい”と“心があたたかい”は異なる主張するだけであったのが、論点3になると、どのように異なるのかを表現しようとしている。どのように異なるかを表現することで、主題である“心があたたかかってどんなことだろう”に迫ろうとしている。

てつがく対話における児童の発言について

Hの発言は、心のあたたかさを色で表現している。このことは、心のあたたかさという目に見えないものを、色という目に見えるもので表そうとする試みである。

【論点4】 やさしさを感じるのと心があたたかくなることの相違

論点2に戻ったかのように見えるが、これまでの対話を踏まえて、2人の子どもが、これまで区別していなかった“やさしさを感じること”と“心があたたかくなること”の相違に言及する。

○Aさんはやさしく感じていないんじゃないかと、心のあたたかさが分からない。(A児が提起した問題の確認) …G (22)

○Aの話の聴いて変わった。Aさんはやさしいって感じてても心があたたかかってどういうことか分からない。その感じ方が分からないから感じられない。(感じ方) …C (23)

C児は3回目の発言である。これまで、「ふどんのあたたかさとは違う」「(A児は) やさしさを感じていない」と言っていたC児がここに来て、“やさしさを感じること”と“心があたたかくなること”の相違に気づいたともいえる。C児にとっては、この2つは同じ事柄であり、そこに何の疑問も抱いていなかったのであろう。「当たり前」が崩れた瞬間と捉えられる。

【論点5】 やさしくされるとあたたかくなるとは？

教師が、A(問題提起者)の発言を促す(24)。

◎やさしくされるとあたたかくなるって、どんな感じか。…A (25)

○(何か)してもらったときに、うれしいなあつか思ったときに、心があたたかくなる。(場面の例示) …F (26)

○どういう感じかといわれるとあんまりなくて、自然になにかあたたかくなる。感じ方があまりない。(説明の難しさ) …M (27)

○実際感じたことがあるのは、優しくしてくれた人が、どういうことをしてやさしくしてくれたのかということを考えて、「あ、こんなことをやってくれたんだ」ということがわかる。(感覚のもとになる理解) …I (28)

○(F児に付け加え)泣いていた時に、すぐに来てくれたら嬉しくなるから(場面の例示) …N (30)

○やさしさじゃなくて、あったまるんだけど、お姉ちゃんとかけんかして、先に謝られると心があったまる。(場面の例示) …O (31)

教師が、再度A児の発言を促し、対話を進める。「どんな感じか？」と感覚を問う問題提起者の発言に対して、場面の例示や、理解がもとになっているという意見、説明が難しいという意見が出ている。しかし、やさしくされたことと心があたたかくなったことをつないだ例を挙げることで、その感覚をなんとか説明しようとしている。

最後の児童の発言(O児)では、やさしさとは異なる場面での心があたたまる例を出している。対話のスタート時は、やさしくされることと心が温まることが不分離・一体であると多くの児童が考えていたことと比べて、両者をそれぞれ別な事柄として捉えている様子が窺える。

(3) まとめ

「心があたたかくなるってどんなことだろう」という問いに対する子どもたちの対話の流れをつなげていくと、以下ようになる。

1. 物理的なあたたかさとの相違

↓

2. やさしく感じるのと心があたたかくなることの異同

↓

3. 心があたたかい状態の表現

↓

4. やさしく感じるのと心があたたかくなることの相違

↓

5. 心があたたかくなるとは？

最後に至ってようやく最初の問いに戻ったように見えるが、ここにたどり着くまでに行われた問いの整理や、自分と他者とが異なることの相互理解、「あたりまえ」の払拭が重要であると考えられる。4が、2に戻ったようでありながら、質を変え、問いへの理解を深めていることは、対話を通してスパイラルに考えを進めて行く場面と捉えられる。

この対話を通して、「心があたたかい」について、自分の内面を見直した子どもがいたであろうことが想像される。

2. 第2のテーマ「つめたいやさしさ」

(1) 問いのタイプ

「つめたいやさしさ」については、第1の問い「心があたたかい」からつなげて、教師が「やさしいってあたたかいだけなのかな」(①)と投げかけている。これに対して、ア児「やさしさってつめたさもあると思う」(②)と発言し、教師はこれを「やさしさってつめたさもあるんじゃないか。やさしさに冷たさって、どういうことだろう。」(③)と問いにしている。

このテーマの問いも、“…とは、何か”タイプであり、定義を尋ねる問いの一つと考えられる。授業の前半で、「心があたたかいとは？」という問いを考えている経験を共有しているため、「心があたたかい」と親和性の強い「やさしさ」に、「あたたかい」の対義である「冷たい」をつなげた「やさしさに冷たさ」という言葉が、新たな問いを生んだと考えられる。

対話にはいる前に、教師は、「やさしさに冷たさってどういうこと？」とを感じる子どもがいないかどうか確認している(④)が、そのような子どもはいない。即ち、「やさしさに冷たさ」があると、多くの子どもが感じていた。

(2) 発言のつながり

「やさしい冷たさもある」と発言したア児から対話が始まった。

【論点1】あたたかさ と冷たさ

○ゲームを「やりなよ」ってあたたかく言ってもそれはやさしさじゃない。逆に冷たく「わー」って言った方がその子のためになる。(真のあたたかさ) …ア (⑥)

○冷たさって言うか分からないけど、注意は成長のために言っているやさしさ。(注意は冷たいやさしさ) …イ (⑦)

○怒られると悲しくなって心が冷たくなる(心が冷たくなる) …ウ (⑨)

ここで教師がエ児を指名し、さらにエ児が事前にかけていた文章を紹介する。

○(文章)自分が良いと思ったことも、他の人にとって嫌なことかもしれない(やさしさの難しさ) …エ (⑬)

問題提起者のア児が例を出し、心が冷たくなるという発言や、やさしさの難しさという気づきも紹介されたが、この後、対話はゲームの良し悪しにつながっていく。これは、“…は、良いか”というタイプの問いだが、“…”に入る事柄が具体的・身近である場合には、子どもたちが対話しやすい事例かもしれない。

【論点2】 ゲームは是か非か

- ゲームを買っても、早く勉強を終わらせようとか、自分のためになることもある。…オ (14)
- お兄ちゃんがゲームの後で勉強とか言ってもやらないから、(ゲームは)悪い…カ (16)
- ゲームのために勉強を早く終わらせるのは、勉強の意味を考えていないから良くない…キ (17)
- ゲームをやると勉強する気がしなくなっちゃう…ク (18)
- ゲームのために勉強を早くやろうと工夫しているから、早く終わったら(勉強を)やっていないというのは何かおかしい…オ (20)

【論点1】 あたたかさと冷たさー注意することは、やさしさかー

当初の問いから外れてしまったので、教師が介入し、元の問いに戻した。さらに教師は、「注意されたらいやな気持ちにならない？」(25)と問いかけ、注意されたときの気持ちに焦点を宛てている。

- 怒られないとずっとやってしまうから、怒ったほうがためになる。将来変なことしない(将来のために)…コ (26)
- 例えば、食事中のルール守らなくて怒られなかったら、何が良いことなのかわからない。会社とかで弁当食べてもルール守れない(規範を知る)…ケ (30)

【論点3】 心が冷たくなること、自分で決めること

注意することはやさしさかという対話に続いて、「冷たいやさしさ」と「心があたたかい」とをつないだ意見がでた。

- 怒られて心が冷たくなるのは、なぜ怒られているのかが、まずわかっていない。怒られて嫌になるのは、なぜ自分が怒られているのかわかっていないから(心が冷たくなる)…サ (33)

聞いている子どもたちの理解が十分ではないと考えた教師は、発言者(サ兒)に説明を促し、さらに他の子どもに関連している発言を求めた。

- 怒られて自分が悪いと思うならやさしいととらえる。怒られていることを理解しなければただの悪口になる。自分で、やさしいととるか、悪いことととるか。(決定するのは自分)…シ (37)

ウ兒の発言と同様に、サ兒の発言には、第1のテーマとの関連が見られる。論理としては、「怒られる理由がわからない」⇒「怒られて嫌になる」⇒「心が冷たくなる」と、つながる。

シ兒の発言に対して、教師は「つめたさをどうとるかによって変わるんだ」(38)と話している。このテーマの問いは、「冷たいやさしさとはどんなことか」であったが、子どもたちの発言は、嫌だと感じられる具体的な行動でも、やさしいものもあるというものであった。それに対し教師は、「それはつめたいけどやさしいっていえるのかな？」(40)と確認する。サ兒の発言に見られるように、子どもたちは、「嫌になること」はすなわち「心が冷たくなること」であるというような論の立て方をしている。さらに、「心が冷たくなること」は「冷たいやさしさ」の「冷たい」に相当することであるとしている。各自にとっては、自明のことなのであろうが、それに対して、教師が確認することで、対話に参加している者たちに発言者が自明としていることを意識させようとする。これも大切なファシリテートのひとつであると考えられる。

【論点4】 注意する目的と自分の意志

- コップに入った水をこぼしたとき、お母さんが注意しないと又こういうことがあると自分でもわからないから注意したほうが良い(注意は良い)…ス (41)
- 自分のために何かやるというなら、何もやらなくてもよい。自分が良い大学に入りたくなければ、やらなくてもよい(自分の意志)…セ (42)
- それだと将来変な生活になっちゃう(将来のために)…コ (43)

○注意しないとピシってならないから、注意したほうが良い（注意は必要）…ソ (45)

○小さい頃になんでもいいよと言われると成長なくて、大きくなって注意されても、子どもの頃に許してもらったんだからって理解できない。小さい頃に注意されれば大きくなってやめようと思える（価値を作る）…タ (47)

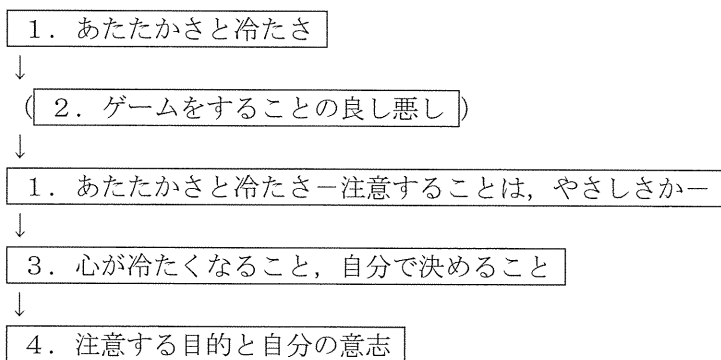
ケからタまで、セに反対する意見が出たため、教師がセの発言を促す。

○自分のためなんだから。自分が立派に成長したければ、教育とか良く受けて、別にいいやという子には、教育とか普通に受けなくていいんじゃないかってこと…セ (49)

ここで、子どもたちの対話は対立の様相を帯びる。注意されること、叱られることは必要であるとす意見に対して、セは、そもそも自分の目指す方向と異なっている注意は不必要であると発言する。

(3) まとめ

「冷たいやさしさって？」という問いに対する子どもたちの対話の流れをつなげていくと、以下のようになる。



これまでの対話をまとめると、「やさしさはあたたかさだけではない」という主張に多くの子どもが賛同し、では、「冷たいやさしさとは？」という問いが発生した。具体的な例として、ゲームを注意する場面が提示され、そこから、ゲームの良し悪しに話がそれてしまった。それは、それているようでありながら、最後の論点に影響を与えており、対話の場面で話される言葉の大切さを表している。

同様に、エ児の発言（文章）は、その後の対話につながっていかなかったが、行為の主体と客体の思いのずれは、自己と他者との関係性として、論点4の「注意する目的と自分の意志」にも共通している。いったんは途切れた言葉でも、聞いていた子どものその後の思考に影響を与えているのではないかと感じられる。

注意されることをやさしいと感じるかどうかは、本人の認識の問題であるという主張も出てくる。一方で、注意することは、本人の将来のためになるのだから、基本的には良いことであるという発言も多い。それでも、注意をあえて「冷たいやさしさ」の例として挙げるのは、注意された瞬間には何らかのネガティブな気持ちを抱くからであろう。これらの論で、「注意はやさしさであり、意味がわかればやさしさ（＝あたたかさ）を感じるができる」という風にまとまりかけたところで、セ児の発言が前提を覆す。

対話の中で注意の例として出されたのは、テーブルの上のコップや食事のマナーなどであり、確かに、指摘されたことを改善すると社会生活が円滑に送られるであろうと思われるものである。しかし、その注意の必要性をいうときに、「将来」をあげていて、根底に、ゲーム論争が影響を与えていると考えられる。ゲームの是非についての論議では、将来のための勉強との関係が言われていたのであるが、ゲームの是非自体は、問い「冷たいやさしさ」とは関係しない。そこで、一旦その話題は止めたのに、そこで話された事柄が、その後の対話に影響している例と言える。

一方、セ児はゲーム論争の“注意の質”に着目する。「将来のために今勉強しなければならない、そのために今ゲームをやりすぎてはいけない」という注意の正当性に疑問を呈する。将来を決めるのは自分で

あり、先に将来像があってそれをもとに正当化するのは正しくないと主張するのである。

冷たいやさしさの代表的な例として、注意されることをあげた子どもたちであり、その正当性の根拠は「(今は嫌でも) 将来のためなのだから」であった。しかし、その正当性の怪しさを心のどこかで感じ取っていたのではないかと判断するのは行き過ぎであろうか。怪しいと感じたからこそ、注意の例は、テーブル上のコップやマナーなど、将来を考えるまでもなく、注意に従ったほうが良いものをあげているのではないか。その偽善の危険性に切り込んだのがセ児の問題提起であると考えられることもできるような気がする。

この対話のもう一つの流れとして、徐々に自分が前面に出てくることがあげられる。最初は、「注意はその子のためになる」という発言だったが、やがて「自分で、やさしいととるか、悪口ととるか」という発言があり、最後には「自分のためなんだから。…別にいいやって…」という発言が出てくる。それぞれの場面は異なるし、発言者がその意見だけにこだわっているとも限らないが、子どもの思考がこのように変化してきているのは興味深い。

また、第1のテーマのときに比べて、子どもがファシリテートする場面が目立つ。友だちの発言を促したり、補足したりしながら対話を進めている様子が見られる。これは、時間が経つことやてつがく対話に慣れてきたことによる変化なのか、テーマの内容による差異なのかは、他の対話を分析して比較する必要がある。

Ⅲ 考 察

第1のテーマでは、「心があたたかくなる」が分からないという一人の子どもの思いを取り上げて対話をする中で、「やさしくされると心があたたかくなる」ということを自明と思っていた子どもたちの概念が揺さぶられていく。やさしさを感じることと心があたたかくなることは同一ではないのだと気づいた子どもは、「こころがあたたかくなる」ってどんなことだろうという問いをもつ。それは最初に投げかけられた問いでありながら、その子どもにとっては、そこで初めて自分の問いになったのだと考えられる。

第2のテーマでは、冷たいやさしさもあると考えている子どもたちが、その例を出し合っていく。その多くは「注意される」という、注意されて嫌な思いをしても相手に自分を思いやる意図がある例であった。しかし、対話を通して、自分の意志、相手の意志、やさしさとは何だろうという風に様々な見方が現れてくる。最初は当たり前だと思っていた事柄の例を出し、語り合うなかには、実は暗黙の前提あるいは枠組みをしているのではないかとこのところが見え隠れする対話となっている。その点を指摘するかのような、かなり挑発的な発言が出るところがこの対話の終結となる。

第1のテーマは一人対多数で、一人になんとか説明しようとする中で、概念の見直しが行われている。一方第2のテーマは、ほぼ全員が同じ考えを持ち、その例(正当性を示す例)を出し合う中で、暗黙の了解があったのではないかとかすかに気づく様子が見える。

この2つの対話に共通することは、多数の意見に対する少数意見、違和感が新たな見方や、思考の掘り下げのきっかけとなっていることである。少数意見については、教師が丁寧に対応し、寄り添いながら、全体への意見として投げかける助けをしている。また、違和感については、子ども同士が自分の考えを自分なりの言葉で丁寧に表現し、それを互いに聴き取ることから、少しずつ感じられていくような気がする。

実際の授業を行うにあたって、子どものつぶやきを大切にしていくことや、子どもの言葉の微妙な言い回しまでも感じ取る繊細さを教師が持つことが重要であると考えられる。しかし、授業の場面では、発言は次々となされ、教師がその判断や対応を完全に行えるとは考えにくい。その際、第2のテーマで見られた子どものファシリテートのように、子ども同士が対話を評価し作っていく力を養うことが、今後の方策の一つとして期待できる。また、少数派の意見から新たな概念が生まれる経験や、挑発的でありながら、どこか本質をついた意見を聴き反論していく経験も、これから子どもたちが相手の言葉を丁寧に聴きあい、その意味を深く考えていく姿勢につながると考える。

IV おわりに—あとがきにかえて—

この分析は、1時間の授業における対話をもとにしている。たった1時間で子どもの考えは変わらな
いだろうというのが一般的であろう。事実、これらの記録に出てきた子どもたちが実際にどのように変
容し、また、その変化がどのように持続するのかわかり得ない。しかし、これらの対話に現れている
思考の様相は大変に興味をそそられる。子どもたちが前の発言者の言葉に触発され、自分の考えをもう
一度吟味し、その結果変化したりあるいは、変化しなかったりする様相が言葉の微妙な言い回しに現れ
ているような気がする。

また、参観していたときには、子どもの発言は瞬間で消えてしまい、流れてしまう。授業者もまた、
その対話に参加する一員として、瞬間的に反応し応答することで対話を作り上げているため、授業者の
言葉も含めて、全ては捉えようもなく動いている。その動きを記録としてとどめ、読み直すことで、新
たな発見も多くあった。その面白さを踏まえて、次の授業を見ることで、子どもたちの対話をみる見方
が少し深まるのではないかと期待する。

しかしながら、子どもの表情やしぐさ、教室を包み込む、曰く言いがたい雰囲気は、記録からは読み
取れない。それはその場にいた者だけが感じられる。そういう観点では、子どもや授業者はもちろんの
こと、参観者としてそこに存在した人もまた、対話を作り上げる要素の一つなのかもしれない。

記録から読み取れる限界は認識しつつ、このような分析を積み重ねることで、子どもたちのてつがく
対話がどのような展開をするのについての知見を得られるのではないかと考える。積み重ねの必要性と、
分析の妥当性についての評価は、今後の大きな課題である。

【授業プロトコル】

授業記録は、平成27年2月18日（木）・19日（金）に行われた『第78回教育実際指導研究会』（お茶の水女子大学附属小学校 公開研究会）での授業に関するものである。

【第1のテーマ「心があたたかい」】

T：ちょっと1ついい。Aさんがね、疑問を書いているんだよね。あの時もちょっと言いかけたけど。これ言っているいい？

A児：[うなづく。]

T：あの、今さ、親切にしてもらおうと嬉しくなるというのがあったけど、Aさんはこんなこと書いてある。

“人にやさしくしてもらって、はげましてもらおううれしいです。でも、本で、やさしくされてあたたかいって書いてあったけど、じっさい、あたたかくなかない。でも、ふとんに入ればあたたかい。

C：[笑]

C：それじゃない。

T1：心があたたかいってどんな感じだろう？
やさしくされると、心はあたたかくなる？

C：[数人うなづく]

T2：そんな経験ある？

C：ない。

C：ない。特にない。

C：あーあるある。

C：なんとなく…あたたかくなる。

T：Aさんの、あたたかい、これに対して何かありますか。

C：[挙手]

T：はい、Bさん。

B児：えっと、ふとんに入る時と、やさしいということは全然違うことになっているから、それは、心があたたかくなる意味が違うと思う。

T：はい、じゃあBさん回して。

B児：Cちゃん。

C児：ちょっとだけ話がかわっちゃうんだけど、妹が、あの一ちょっと親切にした時に、自分で自慢して「優しいでしょー。」って言うんだけど。でもやっぱり、何か、私にとってはあんまり優しくないと思っちゃう時があって。だから優しさは、やっぱり自分では感じられないと思う。自分でやったことは自分で感じられないけど、やってもらった

ことは感じられる。

C：[挙手]

T3：今、ごめん、Cさんが言ってくれたことってみんなわかった？

C：うん。

C：わかった。

T：わかった？

C：うん。

T4：してもらったのは感じるけど、してあげるといっているのは感じられない。

C児：[うなづく。]

T：あーなるほど。

C児：D君。

D児：えっと、Aちゃんに、付け足しというか、そんな感じなんですけど。お布団に入ってあたたまるという目的と、人に優しくするというか、なんか親切にするという目的が、目的ごと、ごと違う。

T：Aさんが手を挙げているから、さしてあげて。一回。

A児：あの一Bちゃんに対してなんですけど。私は、優しくされたあたたかさはわからないから、ふとんに入ったあたたかさとして優しくされたあたたかさの違いが、違いがあまり感じられない。

Eちゃん。

E児：あの一Aちゃんに対してなんだけど、えっと、みんなはちょっと違うかもしれないけど、私にとってはうれしいというのも、えっとちょっと体があたたまるし、あたたまるというか、ポカポカっていうか、あたたかくなるから。だから、だから、えーっと、たぶん、Aちゃんも、わかんなくても、あの一心はあたたかくなってると思う。

Fちゃん。

F児：Aちゃんになんだけど、私は泣いている時、悲しい時があった時とか、友だちとかに大丈夫とかって声かけられる時にあたたかくなって感じるけど、Aちゃんってそういう経験ってないんですか。

A児：ある。

C：あるの。

A児：あのー私が怪我した時に、みんなが大丈夫って言うてくれて、いいんだけど。いいんだけど、何か、ただ、痛くて、嬉しいとかしなくて、あたたかかっていうのがどういう意味か全然わかんない。

T5：じゃあちょっといろいろ人に話をしてもらおうか。

A児：Gくん。

G児：えっと、心があたたまるはちょっとわからないんだけど、実際のあたたかいと心のあたたかいは違うから、布団に入ってあたたかいと心があたたかいは違うと思う。

T：例えばでね、話をしてくれたんだけど、なるほどね。

C児：あのーAちゃんが心があたたかくなならないということは、他の人は感じているから、何をされてもやさしいってまず感じないことになっちゃうんじゃないんですか。

T6：あっそうか、ごめんね。ちょっと。Aさんは優しいとかは感じるんだよね。

A児：[うなずく]

T6：そのあたたかいということが、先生もだけど、あたたかかってどういうことなのかなと思ったので、そんなふうにいってくれるかな。

H児：あのー私のイメージなんだけど。布団であたたかいというのと、あったかいというのと、心があたたまるというのは、あのー同じオレンジ色っぽいイメージなんだけど、布団に入るとぽかぽかという感じで、心があたたまると、気持ちいいというかふわふわした感じだから、何かちょっと違うのかな。

Iくん。

I児：自分の体があたたかいのと心があたたかいのは違って、別に感情的にあたたかくなっただけで、体にその、熱とかは感じない。

Jくん。

J児：あのー、布団に入るとあたたかいというのと、心があたたまるというのは、たぶん同じあったかいというのは同じだけど、布団に入るというのは、ただ単に布団があたたかいだけで、心があたたかいというのは、何かをしてもらって、嬉しくなって、それで、何だろう、感謝というか、そういうふうに、感謝じゃないけど、何か嬉しく思っ

ている時に心があたたまるから、それは絶対たぶん、絶対じゃないけど違うと思う。

T7：こちら側にも少し。Kさんにも。

J児：じゃあ、Kちゃん。

K児：布団に入ってあたたかくなるのは、体があたたかくなって。やさしくしてもらってあたたかくなるのは、心があたたまるんじゃないかな。

G児：えっと、さっきのCちゃんに反対なんだけど。あのーAちゃんがやさしく感じてないんじゃないかって、Aちゃんは心のあたたかいはわかんないだけだと思う。

C児：えっと私はAちゃんの話をして聞いて変わったんだけど、Aちゃんはやさしいって感じて心があたたかかっていうのがどういうことかわかってないから、心があたたかくなっても、その感じ方がわからないから、感じられないだけだと思う。

T8：ごめんね。Aさんに、お話させて。

A児：えっと、みんなに質問なんですけど。そのー優しくされてあたたかくなるってどんな感じなんですか。

C：どんな感じって言われても説明が。

C：[それぞれつぶやくなどの反応をする。]

A児：Fちゃん。

F児：えっと、私が感じるのは、えっとしてもらった時に嬉しいなあとか思った時に、心があたたかくなる。

Mちゃん。

M児：えっと、私はあんまり、あたたかいとは感じるんだけど、あの、どういう感じ方と言われると、あんまりなくて。何か、その人があのー自分とかにやってくれた思いやりとか、何か、自然に、何か、あたたかくなるっていうか、あんまり感じ方があまりない。

Iくん。

I児：感じ方というのは、僕も実際感じたことがあるのは、まあ、感じるというか、その人の、優しくしてくれた人が、どういうことをして優しくしてくれたのかというのを考えてみると、あっこんなことやってくれたんだというのがわかる。

T9：あー、相手の気持ちを思うということ？

I児：[うなずく]

T：なるほど。

N児：さっきのFちゃんに付け足しなんだけど、私もほとんど一緒に、あの一回泣いていた時とかに、大丈夫とか聞かれた時に、だいたいいつも同じ子がすぐ来てくれるから、何か嬉しくなるから、嬉しい、嬉しくなる。Oくん。

O児：やさしさとかじゃなくて、あったまるでなんだけど、よくお姉ちゃんとけんかしちゃって、それでお姉ちゃんから先に謝られると、なんかあたたまる、心があたたまったりする。

【第2のテーマ「つめたいやさしさ」】

T1：ちょっと先生いい？先生話させてもらっていい。

やさしくされると心があたたまるとか、まあ感じ方がね、今聴いていると、それぞれ違うし、やさしさってどういうことなんだろう、あー、あたたかかってどういうことなんだろうってね、先生今思っている。これさ、例えば何かしてもらった、やさしくしてもらった、親切にってもらった、思いやりとかも書いている人もいましたけど。やさしいってあたたかだけなのかな？それね、アくんが書いていたんだよね。ちょっとしゃべってみて。

A児：やさしさってつめたさもあると思うんだけど。何でかっていうと、例えば。

T2：ちょっと待って。ちょっと待って。なんでか。先生、やさしさってつめたさもあるんじゃないかって書いてあって、Aさんのもの読んで、つめたさ、やさしさにつめたさってどういうことだろうって思っ

C：わかるわかる。

C：よくある。よくある。

C：2つある。

T3：今手を挙げている人はピンとくるの？やさしさの中につめたさってどういうことだろう？って思う人はいますか。

C：[挙手なし]

T4：それはいいない。じゃあ、アくんにはちよっと話をしてもらって、その後回しましょう。

A児：例えばゲームで、お母さんや両親が、ほらほらゲームやりなよって、そんなふうにあたたかく言っても、それはやさしさじゃな

くて、逆に、つめたく、ワーって言った方が、その人、その子のためにもなるし、勉強もできるから冷たさも必要だと思う。

T：イ君。

イ児：つめたさっていかよくわからないんだけど、何か、あの、いけないこととかをして、何か怒られたり、注意されたりすると、それはその注意された子が、成長するために、言ってる優しさ。

C：あー、言われた。

T5：注意することもやさしさ？

イ児：のうちに。入る。

C：うん。

ウ児：あの一、私、さっきからずっと思っていたんだけど、ゴウタくんと反対っていうか、思っちゃうことなんだけど、怒られたりすると、逆に何か悲しくなって、心がつめたくなる感じがする。

T6：そっか、そっかそっか。ごめん。ごめんね。今あたたかいやさしさ。あたたかい、つめたいというのが、先生もあたたかいに対してつめたいという、そういう表現をしたんだけど。それがやさしさと言えるかな？

ウ児：でも、私のために怒ってくれているから、やさしさとも考えられるんだけど。私の場合は、お母さんがすっごくカミナリが落ちたように感じるから、

C：こっえ。

C：こえー。

C：[笑]

ウ児：とつても心が冷たくなっちゃう。

T6：エくん。

エ児：えっ、いや。

T：いいよ。

エ児：えっと、心が冷たくなるとは、まあ、例えば、あの、僕にとってやって欲しいこと、例えば重い荷物を持っている時に、重い荷物を持っている時に、あの一手つだってもらったら、まあ、嬉しいけど、でも、僕にとっては嬉しいけど、他の人に対しては、あの一それが嫌かもしれないから、

C：えっ？

C：えっ？

T7：あー。ちょっと待って、エくん、書いてあったこと読んでみてもいい？こんなこと書いてある。えっとね、最初の方はこんなこ

と書いてある。“やさしくするとは、ぼう力をふったり、言葉づかいが悪くなくて、人を大切にすること。”で、その後ずっと書いてね。“ぼくは、やさしさとは、他におもい荷物を持っている時に手つだってあげたり、自分の時間を人のために使うこと、自分がいいと思うことはやってもいい、でも、”今言ったことなんですけど、“自分の考えたことがその人にとっていやなことかもしれない。ぼくは、やさしさとはむしろかしいと思います。”…エくん、次の人をあなたが指してあげて。

エ兄：オくん。

オ兄：さっき、イクンとアくんが、あの、親が、ゲームを、今までは買ってあげなかったけど買ってあげて、そうすると、自分のためにはならないと言っていたけど、たぶん、たまにいると思うんだけど、逆にそれで、ゲームの影響で、早くやりたいから勉強したりするから、もしれないから、それは逆にあの一自分のためになるんじゃないかな。

C：[色々つぶやく]

T8：オくん、まだカさんが話してないから。

オ兄：カちゃん。

カ兄：でも、私のお兄ちゃんは先にゲームをして、それで勉強とか、全然やらなくなって、それで例えば、夜の九時から勉強を始める時に、9時半から始めることもあったりするから、それはちょっとよくない。

キ兄：オくんに反対なんだけど、ゲームをやりたいから早く勉強を終わらせるっていうのは、何かあんまり、勉強とかの意味を理解せずに、あーこれはこうだとか、適当に答えちゃったりするから、よくないと思う。

C：付け足し！

ク兄：私もオくんに反対なんだけど、やっぱりゲームをやっちゃうと、勉強する気がなくなっちゃうって、ずっとゲームをやることになっちゃうから。

T：オに戻してあげて。オくん、言いたいことがある。

オ兄：えっと、さっきから、えっと、ゲームをやるうとして早くやると意味がわかってないってキちゃんが言っていたけど、僕の場合だと、逆に早く、まずは問題を解いて、それで、〇つけをして、それでわかんなかっ

たら、まずは解説を読んでから、それでわかっただらというので、それで、早くやれば、それで、早くやったら、早く終わったらやらないというのは、何か、おかしいんじゃないのかな。

T10：ストップ、ストップ。今、ゲームの話になっているんだけど、[笑]

C：[笑]

C：何でゲームの話なんだ。

C：ゲームの話をしようよ。

C：ゲームはしちゃいけないってなってる。

C：ではない。

T：そういうことではないと思うんだ。

ケ兄：話戻そう。

T11：話を戻していい？

ケ兄：細かくし過ぎ。

T：おー。

C：何でゲームになっちゃうんだ。

T12：イ君がさっき言ってくれた、注意すること、注意することもやさしさじゃないかって言うんだけど。それって、注意するってやさしさですか。

C：はい。

C：はい。

T13：だって、注意されたら嫌な気持ちにならない？

C：そうなんだけど。

C：だけど、だけど、だけど。

C：だけど、だけど、だけど。

T：先生は思う。

コ兄：あの一、ダメなこととか、ダメなこととか、あの一えーとそういうふうにならなくてやるとずっとやっちゃうかもしれないから、怒った方が、そういうふうにならないうーん、…えーっと、えーっと、

C：ためになる？

コ兄：何か、ためになるし、将来というか、何か、大きくなってから変なことしないとか、そういためとか、そういうこともあると思うし。

C：付け足し。

C：ケに言わせてあげて。

ケ兄：あの一えっと例えば、食事中にルール守らないから。食事中に何か変なことやって、ルール守んなかったりしたけど、それでも、もし怒んなかったら、将来、

- サ：どうなる？
- ケ児：あの一、会社とかで、弁当食べてても、そのルールをやぶってたら、この人なにやってるの、何でこんなルールも守れないのって周りに…。わかんなくなっちゃうから。何をしたらいいのかとか、何がいいことなのかとか。サクん。
- サ児：さっきのコに付け足しなんだけど、あの一それで、心が冷たくなる、怒られて心が冷たくなるのは、なぜおこられているのかが、まずわかってない。
- C：えっ？えっ？
- C：えっ？
- T14：ちょっと待って。今、えって声が拳がったから、もう1回言って。
- サ児：えっと、怒られて嫌になるのは、なぜ自分が起こられているのかその人はわかってない。
- C：あー。
- C：よくある、よくある。
- T15：わかる？今の？
- C：わかる。
- C：わかる、わかる。
- C：[色々話す。]
- シ児：えっと、サ君に付け足しなんだけど、自分が悪いと、それで、誰かに怒られて、自分が悪いと思うなら、それはやさしいと捉えるし、自分の悪口というか、まあ、自分が嫌いでもただ単に怒っているんだって、その怒られていることを理解しなければ、その怒られている人にとってはただの悪口になっちゃうから。だから、自分でそのつめたさをやさしいととるか、それとも悪いことととるかということになる。
- T16：冷たさをどうとるかによって変わるんだ。
- シ児：[うなずく。]
- T17：スさんしゃべってないから。
- ス児：ちょっと話がちょっと戻っちゃうんですけど、コップに入っちゃった水をこぼしちゃった時に、お母さんとかが注意しないと、すごい、その時に、1回目に怒らないと、またこういうことがあるなど自分でもわからないと、またやっちゃうかもしれないから、注意した方がいい。
- セ児：えっと、何か、コくに付け足しなんだけど、自分のために何をやるっていうことは、別に自分のためなら、何もやんなくてもいいんじゃないかと思うんですけど。別に、あの一自分が、いい大学に入りたくなければ、やんなくていいんじゃないですか。
- C：それに対して。
- コ：そういうふうになるんだったら、将来とかに何か、何だろう、あの一社会に出て、変な生活になっちゃうと思う。
- T18：ソさんにしゃべらせてあげて。
- ソ児：コくとスちゃんに付け足しなんだけど、そういう、注意しないと、ピシッってなんないから、変な人になっちゃうし、だらしがないから、注意したほうがいい。
- C：それに対して。
- タ児：えっと、セ君に反対なんですけど。それで、ソちゃんに付け足しなんですけど。あの一、自分のためっていうか、まず、例えば、小さいころに、何でもいいよって言われて、何でも何でも許されていたら、背とかは伸びるけど、成長しなくなって、大きくなってから変なことを、あの一他の人に注意されても、これは子どもの頃に許してもらったから、何に怒られているのかわからなくなって、もう、何も理解できなくなっちゃうから、やっぱり小さなころのうちに、注意しておけば、大きくなってこれは悪いからやめようって考えられる。
- C：今のタちゃんの。
- T：ごめん、[時計を見ながら、]あと、時間が。
- C：[挙手多数]
- C：付け足し！
- C：先生！
- C：最後に話かわる。
- C：ハテナ。
- C：一言。
- T：えっと、最後色々言いたいと思うんだ。質問もあるし、反対もあるし、
- C：言いたいこと。
- T19：言いたいこともあるし。えっと最後、言わせてあげたいけど時間がないんだ。最後みんな書いてもらおう。書いてもらおう。そしてできる限り、次にかきたいと思うんですけど。セ君に反対の意見が出ているので、セ君に最後、自分の思いを言わせてあげていい？じゃあ、セ君。
- セ児：えっと、自分のためなんだから、別に、自

分は自分で生きていけばいいんじゃないですか。別に、自分が立派に成長したければ、何かすごい、教育をよく受けて、別に立派になりたくなくても、別にいいやと言う子は、別に教育とか、ふつうにうけなくていいんじゃないですかってことです。

C：義務教育だよ。

C：義務教育だよ。

T：今の考えを受けて、言いたい人いっぱいいると思う。それぞれ色々あるよね。あと、2分30秒で終わってしまうので、この後自分の座席に戻って、紙を配りますから、今の色々な話を聴いて、今自分が考えていること、「やさしさって何だろう」ちょっと書いてみて下さい。

*尚、この授業記録は、平成28年7月30日行われた、『価値判断力・意思決定力を育成する社会科授業研究会第21回研究大会』において、『論争的学習と哲学的対話』というテーマで話し合われた際の当日資料としても配布をしている。

てつがく対話における児童の発言について

【対話一覧】

○表 1

「心があたたい」発言一覧			教師の発言							
No.	人	回数	ファシリテート	問題の提示	論点1	論点2	論点3	論点4	論点5	
					物理的なあたかさと心の相違	話題の変更	やさしさを感ずることと心があたかくなることの異同	心があたたい状態を表現する	やさしさを感ずることと、心があたかくなることを同一とみなす	心があたかくなることは？
1	A	1		「やさしくされてあたたい」ということがわからない。補足：ふとんにはいれはあたたい。						
2	T		心があたたいってどんな感じだろう							
3	T		やさしくされると心はあたたかくなる、そんな経験ある？							
4	B				ふとんに入る時とやさしいときは違う。だから、(ふとんに入ればあたたい)心があたたかくなる意味とは違う					
5	C					やさしさ、自分でやったことは感じられない。やってもらったことは感じられる				
6	T		Cさんの言ってくれたことわかる？							
7	T		してもらったのは感じられるけど、してあげてるっていうのは感じられない							
8	D				おふとんに入ってあたたまること、人にやさしくすることは目的が違う					
9	A	2			(Bに)やさしくされたあたかさがわからないから、ふとんのあたかさとの違いがわからない。					
10	E					うれしいも体があたまる、ほかほか。Aちゃんもわからなくても心はあたたかくなっていると思う。				
11	F	1				赤いときままだちに声をかけられるとあたたいと感じる。Aはそういう経験がないのか。				
12	A	3				(やさしくされたとき)うれしいとかしかなくて、あたたいっていう意味がわからない。				
13	T		いろいろな人に話してもらおう							
14	G	1			心があたまるは、ちょっとどう言ったらいいかわからないけど、ふとんに入ってあたたいことは違う					
15	C	2				心があたかくなれないということとは、何をされてもやさしいと感じないことになる。他の人は(やさしくされると心があたかくなる)感じているのだから。				
16	T		Aさんは、やさしいとは感じる。あたたいとはどういうことか言ってくれるかな。							
17	H						ふとんであたまるあつたかいと、心があたまるのは、同じオレンツきっぽいイメージ。ふとんはほかほかという感じで、心があたまるとふわふわした感じ、ちょっと違うかな。			
18	I	1					(心があたたい)は感情的にあたかくなっただけで、熱とかは感じない			
19	J						あつたかいというのは同じだけど、ふとんは単にふとんがあたたいだけで、心があたたいというのは、何かしてもらった嬉しくなって、感謝とか、(この二つは)違うと思う。			
20	T		7こら側、Kさんにも少し							
21	K						体があたかくなること、心があたかくなること。			
22	G	2					(Gに反対)Aさんは、やさしく感じていないんじゃないかと、心のあたたいかわからない。			
23	C	3					Aの話を聞いて変わった。Aさんは、やさしいって感じて心があたたいってどういうことかわからない。心があたたかなくてもその感じがわからないから感じられない。			
24	T		8Aさんに話させて							
25	A	4		やさしくされるとあたたかくなるってどんな感じか						
26	F	2							(おに)してもらったときに、うれしいなあつたかときに、心があたかくなる	
27	M								あたたいとは感じるが、どういふ感じ方かわかるとおんまりなくて、自然になにかあたたかくなる、感じ方があまりない。	
28	I	2							感じ方というか、実際感じたことがあつたか、嬉しくてくれた人がどういふことをしてやさしくしてくれたのかというのを考えて、あ、こんなことをやってくれたんだということがわかる。	
29	T		(Iの意見をまとめて)相手の気持ちを感じるということ？							
30	N								(Fに付け加え)遊んでいたときに、すぐに来てくれて嬉しくなるから	
31	O								やさしさでなくて、あつたまる(について)なんだけど、お姉ちゃんどひんかして、宛に贈られると心があつたまる。	

○表2

「冷たいやさしさ」発言一覧		教師の発言		子どもによるファシリテート			
No.	人	ファシリテート	問題の提示	論点1	論点2	論点3	論点4
				あなたかさと冷たさ	ゲームは是非か	心がつめたくなること、自分で決めること	注意する目的と自分の意志
1	T	やさしさをどういうことなんだろう。あなたがいつてどういうことなんだろうと考えた。やさしいってあなたがいだけなのかな。					
2	A	1	やさしさを冷たさもあると思う。				
3	T	2	やさしさを冷たさもあるんじゃないか。やさしさに冷たさってどういうことだろう。				
4	T	3	手を挙げてる人はピンどくる？やさしさの中に冷たさってどういうことだろう？って思う人はいない？				
5	T	4	それは、いない。では、Aくんにまず話してもらって、その後回しましょう。				
6	A	2		ゲームで、両朝が「やりなよ」ってあなたかかいても、それはやさしさじゃない。逆につめた「わー」って行った方がその子のためになる。			
7	I			つめたさを言うかよく分からないけど、注意は成長するために言っているやさしさ			
8	T	5	注意することもやさしさ？				
9	ウ			怒られると悲しくなって心が冷たくなる			
10	T	6	先生も、あなたがいに対して冷たいという表現をしたけど、それがやさしさといえるかな。エ君(指名)				
11	E	1		心が冷たくなるとは、例えばやって欲しいこと(をやってもらったら)うれしいけど、それは他の人に対しては嫌かも…			
12	T	7	エくんが書いていたことを読んでも良い？				
13	E	2		(書いてあった文章)…自分がいいと思うことはやってもいい。でも、自分が考えたことがその人にとって嫌なこともかもしれない。ほくはやさしさとは難しいと思います。			
14	オ				ゲームを買っても、早く勉強を終わらせようとか、それが自分のためになることもある。		
15	T	8	オ君、まだかさんが話してないから(回してあげて)				
16	カ				お兄ちゃんがゲームの後で勉強とか言ってもやらないから(ゲームは)悪いと思う。		
17	キ				ゲームのために勉強を早く終わらせるのは、勉強とかの意味を考えないから良くない。		
18	ク				ゲームをやっちゃうと勉強する気がなくなるから。		
19	T	9	オ君に戻してあげて				
20	オ	2			ゲームのために勉強を早くやろうとして工夫があるから、早く終わったらやっていないというのは、何かおかしい。		
21	T	10	ストップ。ゲームの話になっている。				
22	ケ	1	話を戻そう				
23	T	11	話を戻して良い？				
24	T	12	イ君が言ってくれた、注意するってやさしさですか？				
25	T	13	注意されたいやな気持ちにならない？				
26	コ	1		ダメなことか、怒られないとずうとやっちゃうかもしれないから、おこった方が…			
27							
28	コ	2		ためになるし、将来変なことしないとか。			
29							
30	ケ	2		例えば食事中にルール守らなくて、怒らなかったら			
31	サ						

てつがく対話における児童の発言について

「冷たいやさしさ」発言一覧			教師の発言		子どもによるファシリテート		
No.	人	ファシリテート	問題の提示	論点1	論点2	論点3	論点4
				あなたかさと冷たさ	ゲームは是非か	心がつめたくなること、自分で決めること	注意する目的と自分の意志
32	ケ	3		会社とかで弁当食べててもルールも守れないのかって、周りに、何が良いことなのかわかんなくなっちゃうから。			
33	サ	2				コに付け足して、心がつめたくなる、怒られて心が冷たくなるのは、何故怒られているかが、まず分かっていない。	
34	T	14	「えっ」って声が上がったからもう一回言っ。				
35	サ	3				怒られて嫌になるのは、何故自分が怒られているのか分かっていない	
36	T	15	分かる？今の？				
37	シ	1				誰かに怒られて自分が悪いと思うなら、やさしいと捉えるし、怒られていることを理解しなければ、ただの悪口になっちゃう。自分でやさしいとるか、悪いこととるになる	
38	T	16	つめたさをどうとるかによって変わるんだ				
39	シ	2				(うなずく)	
40	T	17	スさんしゃべってないから				
41	ス						ちょっと戻るけど、コップに入った水をこぼしたとき、お母さんが注意しないと、又こういうことがあると自分でも分からないから、注意した方が良い。
42	セ						自分のために何かやるっていうのなら、何もやらなくても良い、自分が良い大学に入りたくなければやらなくてもよい。
43	コ	3					それだと将来変な生活になっちゃう。
44	T	18	ソさんにしゃべらせてあげて				
45	ソ						注意しないとビシッてならないから注意した方が良い。
46	S		それに対して				
47	タ						セ君に反対で、自分のためって言うか、小さい頃に何でも良いよって言われると、成長しなくて、大きくなって注意されても子どもの頃に許してもらったんだからって理解できない。小さい頃に注意されれば大きくなってやめようと考えられる。
48	T	19	時間なので、セ君に反対の意見がでているので、最後セ君。				
49	セ	2					自分のためなんだから。自分が立派に成長したければ、教育を良く受けて、別にいいやという子は、教育とか普通に受けなくていいんじゃないかってこと。

【参考文献】

- 池田全之 (2016) 「“てつがくすること” を考えるため」『児童教育』26号NPO法人お茶の水児童教育研究会
- 河野哲也, 土屋陽介, 村瀬智之, 神戸和佳子(2015)『子どもの哲学』毎日新聞出版
- 苫野一徳 (2017)『はじめての哲学的思考』筑摩書房
- 野矢茂樹 (1994)『論理学』東京大学出版会
- 森田伸子 (2011)『子どもと哲学を』勁草書房
- フィリップ・キャム(2015)『共に考える』榊形公也監訳, 萌書房